

平成30年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	市民パワー	支出伝票No.	2
事業名	「遠野わらすっこプラン」の取り組みについて		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

- ・人口減少、少子高齢化の進行は、飯田市においても大きな課題となっている。
- ・岩手県遠野市では、子育て支援に関する条例やそれを推進する少子化対策・子育て支援総合計画「遠野わらすっこプラン」が策定されており、さまざまな施策が展開されている。この取り組みを学び、飯田市の参考にしたい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成30年10月24日 15時00分～17時30分	岩手県遠野市 子育て応援部長 佐々木一富 氏 子育て応援部 こども政策課 佐々木真奈美 氏 議会事務局 事務局長 菊池亨 氏

報告内容 ・ 実施したこと	1 観察先（市町村等）の概要 岩手県遠野市 ○人口：28,062人（H27国勢調査） ○面積：825.97km ² ○財政規模：177億8,000万円（平成30年度一般会計当初予算）
	<p>2 観察内容（遠野市役所にて説明）</p> <p>(1) 遠野市わらすっこ条例（平成21年4月1日施行、平成25年一部改正）制定の趣旨 次のような趣旨から、条例では子どもの権利の保障、子どもの周りの大人の責務が定められています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらすっこ（以下「子ども」という）は、生まれながらにして一人ひとりがさまざまな個性や能力や夢をもったかけがえのない存在です。一人の人として権利が尊重され、責任ある社会の一員として周りの人に大切にされ、愛され、信頼される存在です。子どもは、さまざまな人、自然、そして文化との適切な関わりの中で、その権利が保障され、安心して健やかに成長していくことができます。 ・その一方で子どもは、自分の権利について学び、気づき、身についていく中で、他の人の権利を大切にし、お互いに権利を尊重し合える力をつけていき、自分や他の人の命の尊さを知ることができるよう支援されます。 ・おとなは、真に子どもの視点を大切にするとともに、子どもにとって最善の方法は何かを常に考え、育ちを見守り、寄り添い、支えていく責務を負っています。おとなは、そのような責務とそれぞれの役割を認識し、子どもから信頼される存在であるように、お互いに連携し、協働することが求められます。 ・子どもは遠野の宝であり、希望です。市はこの認識のもと、子どもの権利が尊重され、健やかな育ちを支援するまちであることを明らかにし、この「遠野市わらすっこ条例」を制定します。 <p>(2) 遠野わらすっこプランの取り組み</p> <p>ア 遠野市わらすっこ条例応援事業者認定制度 条例の趣旨に賛同し、子どもの育成に関する活動への協力等に努めている事業者、子育て期の従業員が仕事と子育てを両立することができる職場環境づくり等に努めている事業者を遠野市わらすっこ条例応援事業者（以下「認定事業者」という。）として認定。</p> <p>（認定の流れ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事業者がわらすっこ条例等を応援する内容を提出。 ② 市はその申請を受け取り審査。 ③ 審査の結果、認定基準を満たす場合は、認定書の授与を行う。（※サインキューブの贈呈）

	<p>④ 事業者は宣言項目にある子育て支援の取り組みを実行。</p> <p>※ サインキューブ 妊産婦や高齢者などの専用（優先）スペースである表示。</p> <p>※ 事業者のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献を行う事業所としてイメージアップが図られる。 ・勤務環境の整備促進につながり勤務意欲を生み出す。 ・取り組み内容が、市のホームページやケーブルテレビで紹介される。 <p>※ 認定実績（認定期間 5年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度認定 22 事業所 ・平成 29 年度認定 2 事業所 ・平成 30 年度認定 10 事業所（予定） 合計 34 事業所 <p>イ とおのスタイル結婚応援事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 婚活事業の企画スキル向上研修会の開催 ② 自己演出力アップセミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・男性向けセミナー ・女性向けセミナー ③ 婚活事業主催者への支援（出会い系事業費補助金の交付） ④ わらすっこ条例応援事業者認定助成金の支給（認定事業所から婚活事業に 1 人 2 回以上参加した場合 10,000 円を助成） ⑤ 交流会・講演会イベント等の開催 <p>（事業効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会い系の場をマネジメントする能力を研修し、地区センターを中心に市内全体で定期的な出会い系の場が創出される。 ・独身者の自己演出力を向上させ、自分に自信をつけて婚活力をアップさせることができる。 ・独身者への出会い系の場を創出し、結婚や家庭を持つことへの機運の醸成を地区センターが中心に行政・地域・事業所の市内全体で応援することができる。
感想まとめ 市に活かせること等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利や大人の責務を条例化し、事業者を含め地域全体で子育て支援施策に取り組まれていることを学び大変参考になった。 ・「遠野市わらすっこ条例応援事業者認定制度」については、事業者が子育て支援に取り組む内容を申請し、市はその内容を審査、認定基準を満たす場合は認定。市のホームページやケーブルテレビで取り組み内容が紹介されることにより、社会貢献を行う事業所としてイメージアップが図られる、というもので、実際に多くの企業の登録があり、子育て支援の環境が地域へ波及していることを学ばせていただいた。 <p>これを飯田市のワーク・ライフ・バランスで考えた場合、認定制度をつくることにより、事業者の取り組みを支援・促進することができること、飯田市の認定を受けることによる、求人募集時のイメージアップも図られることが想定される。</p> <p>また、現在飯田市の契約は「総合評価落札方式」での算定基準が設けられているが、その算定基準の中にワーク・ライフ・バランスの取り組み（地域の実情に沿った形の事業所認定制度の創設）も視野に入れ、検討していくことも大切な視点と感じた。</p>

（3）この事業実施後の対応及び方向性

- ・これを参考とし、会派所属の福澤克憲が代表質問を行った。

平成30年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	市民パワー	支出伝票No.	2
事業名	オガールプロジェクトの取り組みについて		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的: どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

- ・オガールプロジェクト (公民連携手法による公共施設整備や経済開発を通じたまちづくりなど) の取り組みを学び、飯田市の参考にしたい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成30年10月25日 10時00分～12時00分	岩手県紫波町 NPO法人紫波みらい研究所 事務 局長 橋浦律子 氏 オガール紫波(株) 志田由華 氏

報告内容・実施したこと	1 観察先 (市町村等) の概要 岩手県紫波町 (しわちょう) ○人口: 32,614 人 (H27 国勢調査) ○面積: 238.98k m ² ○財政規模: 129 億 2,065 万円 (平成30年度一般会計当初予算)
	2 観察内容 (オガールプロジェクト現地視察) (1) プロジェクト序章① ・平成10年2月藤原孝町長就任 課題: 日詰商店街の空洞化、紫波中央駅前町有地の開発 3月紫波中央駅開業 7月紫波中央駅前公共用地取得 (10.7ha 28億5,000万円 (うち19億借金)) ・平成11年1月経常経費10%削減目標の予算編成 (前年度比較4億2,300万円 8.8%減)
	(2) プロジェクト序章② ・平成12年6月「新世紀未来宣言」を発表 ～100年後の子どもたちに紫波の環境をより良い姿で残す～ ・平成13年 第一次紫波町総合計画 (策定) 紫波町環境循環基本計画 (策定) 紫波町循環型まちづくり条例 (制定) 「町民・企業・行政三位一体」の理念 ・平成15～16年 えこ3センターの整備 堆肥製造施設 (有機資源循環施設)、ペレット製造施設 (未利用森林資源の活用)
	(3) プロジェクト序章③ ・平成16年盛岡地域合併問題協議会不参加表明 持続的に自立できる紫波町行財政計画 (自立計画) 策定 ・平成17年自立計画実行初年度 「経営品質会議」設置、委員には岡崎正信氏の名前も・・・

- ・平成18年地区創造会議に着手（地域づくり活動）

町長が「公民連携手法」で紫波中央駅前町有地の開発を進める旨を町幹部に指示

- ・平成19年東洋大学と協定締結（公民連携元年）

（4）紫波中央駅前エネルギーステーション計画

・事業目的

エネルギーの自立による地域経済の循環を目的に、紫波中央駅前の公共施設等に冷暖房熱を供給する紫波中央駅前エネルギーステーションを構築し、再生可能エネルギーの利用を促進するとともに、地域内への普及と再生可能エネルギーへの理解を高めるため事業を導入する。

・対象施設

役場新庁舎、オガールベース・D街区の事業棟、住宅57戸（建築条件付分譲）

・設備

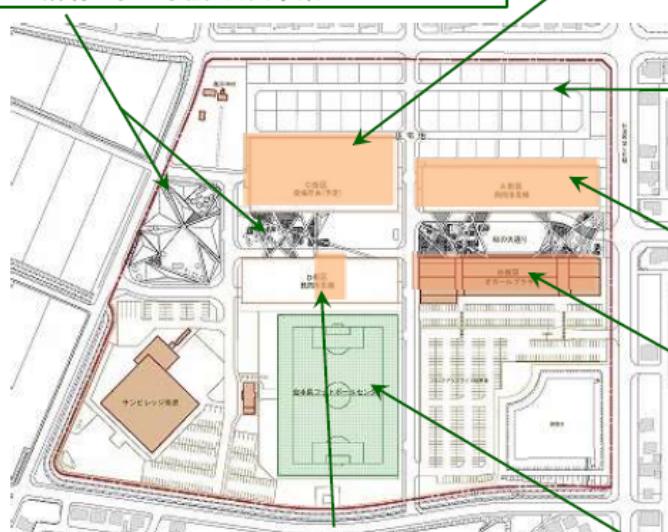
木質チップボイラーを中心とした再生可能エネルギー設備一式

・事業主体

紫波グリーンエネルギー（株）

オガール地区の土地利用

オガール広場 東 H24.8 西 H25.5完成
オガール大通公園 H26.7完成
所有:町 手法:公共事業



エネルギーステーション H26.6完成
建物:紫波グリーンエネルギー（株）
手法:民間事業、町は土地賃貸
特徴:ベース、庁舎、タウンに熱供給

役場庁舎 H27.5開庁
建物:町 手法:PFI手法
特徴:地域材活用

オガールタウン H25.10分譲開始
土地・建物:購入した方
手法:住宅地57戸を分譲
特徴:産業政策としてエコハウスを普及

オガールベース H26.7オープン
建物:オガールベース（株）
手法:民間事業公募、町は土地賃貸

オガールプラザ H24.6オープン
建物:オガールプラザ（株）、紫波町
建設費:公共部分 8.1億円
手法:PPP手法、町は民間棟の土地賃貸
特徴:区分所有、地域材活用

県フットボールセンター H23.4オープン
設備:(社団)岩手県サッカー協会
整備費:1.75億円
手法:PPP手法、町は土地賃貸
特徴:雨水貯留浸透施設の上に設置

感想

- ・100年後の子どもたちのために、資源循環のまちづくり、森林資源の活用などと合わせながら、「公民連携手法で」紫波中央駅前の町有地を再生した取り組みは、大変参考になった。
- ・具体的な公民連携の手法や財政分野の話しを聞かせていただけたと、飯田市の参考になると感じた。

（3）この事業実施後の対応及び方向性

- ・まちづくりのあり方を学び、今後の会派の提言等の参考とした。

平成30年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	市民パワー	支出伝票No.	2
事業名	宝を生かしたまちづくり		
事業区分 (該当へ○)	<input checked="" type="checkbox"/> ①調査研究費 <input type="checkbox"/> ②研修費 <input type="checkbox"/> ③広報費 <input type="checkbox"/> ④広聴費 <input type="checkbox"/> ⑤陳情等活動費 <input type="checkbox"/> ⑥会議費 <input type="checkbox"/> ⑦資料作成費 <input type="checkbox"/> ⑧資料 <input type="checkbox"/> まちづくり購入費 <input type="checkbox"/> ⑨人件費 <input type="checkbox"/> ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

リニア新幹線開通を控える飯田市にとって、飯田の魅力の再発見は重要な課題であると考える。二戸市で取り組んだ「宝を生かしたまちづくり」を参考に、今後の飯田市の取り組みに活かす。

(2)実施概要

調査・研修の場合の実施日時と訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	平成30年 10月25日 14時50分～17時00分	岩手県二戸市 総務政策部 副部長兼政策推進課長 小野昭徳氏 総務政策部 政策推進課 副主任兼ふるさと支援係長 高山英人氏

報告内容・実施したこと	1 観察先（市町村等）の概要 <input type="checkbox"/> 面積：420km ² <input type="checkbox"/> 人口：27,336人（H.30.4.30現在） <input type="checkbox"/> 林野率：67.1% <input type="checkbox"/> 生漆生産量：全国1位（74.8%）・ブロイラー：全国1位
	2 観察内容 《宝を生かしたまちづくり》取り組みの経過 <input type="checkbox"/> 市は財政的に厳しい状態に陥り、ハード面に使う資金が乏しい状況となった。 住民は、まちの将来に关心が薄く、他人任せ。街並みは旧態依然で変わらない。自らのまちのことをあまり知らなかつた。 <input type="checkbox"/> 平成4年・小原市長が就任。「楽しく美しいまちづくり」を宣言。・「楽しく美しいまちづくり」地区懇談会を9地区で実施。・市民30名、市職員29名による「楽しく美しいまちづくり推進委員会」結成。 ・市の固有の宝を発見するため10項目の「わたしの宝探し」アンケート調査を <u>全9000世帯</u> で実施。 <u>7,371件</u> の回答あり……自然・生活環境・歴史文化・産業・名人・要望の6分野。9地区10ゾーンの地域振興テーマ。 <input type="checkbox"/> 平成6年・「楽しく美しいまちづくり事業計画」をまとめ、市長に提言。・「事業計画」を作成し、全戸に配布。・宝の案内板、説明板設置開始。 <input type="checkbox"/> 平成12年・「二戸市宝を生かしたまちづくり条例」施行 <input type="checkbox"/> 平成13年・二戸市宝を生かしたまちづくり推進委員会発足。 <input type="checkbox"/> 平成14年・雑穀特産品第1弾「五穀ラーメン」発表。・広域観光物産センター「カシオペアメッセなにやーと」オープン。（東北新幹線開通） <input type="checkbox"/> 平成23年・全国エコツーリズム大会in岩手にのへ開催
	《宝探しの意義》 第1の意義： <input type="checkbox"/> 市民総参加……宝探しが市民一人ひとりの生きがい探しとなるよう、市民参加によって宝を発掘再発見し、それを活用して二戸市を活性化してゆく。（全世帯アンケート）
	第2の意義： <input type="checkbox"/> お年寄りの参加……長年の生活の中で、様々な文化を継承してきたお年寄りを、宝という形で発掘し、その知恵を活かすため、まちづくり参加への契機に。
	第3の意義： <input type="checkbox"/> 女性の参加……郷土料理や織物などのように、女性が中心となり守り育ててきた生活文化は大切な地域の宝。

第4の意義：先人たちの宝を生かしたまちづくりの発掘……先人たちの伝統技術、歴史や文化財、観衆、物産など、多くの宝を発掘し、生かし、次世代の子どもたちに継承するまちづくりを進める。

《「宝探し」から「地域づくり」への5段階》

①宝を探す……地域固有の資源を地域住民自身が発掘・再発見……ムカシエンコウガニの発見・「山神ゆぶし」などの伝統行事の活用・匠の技芸、芸能の達人、昔話敬称など、名人の発掘、登録

②宝を磨く……発掘・再発見された宝を保存・伝承・発展させる……宝に関心を寄せる人を増やす

③宝を誇る……宝の価値を認識し、地域の中で価値認識を共有するための活動……冊子発行・宝の案内板設置・平成12年「宝探し条例の制定」・地域の伝統行事の復活

④宝を伝える……地域外の人との宝の価値の共有……エコツア (年間6回のツアー実施) (H23年、全国エコツーリズム大会 in 岩手にへの開催)・市民が主体的に「地域づくり団体」を設立、エコツアの受け入れ、地域イベントの開催・自然観察会・里山体験・農作業体験

⑤宝を興す……宝を活用して産業に結びつけるための活動……「二戸ブランド」の販売・地元の造り酒屋が2017IWC (インターナショナル ワインチャレンジ) でゴールドメダル獲得・地元の菓子店が伝統の菓子と新しい技術の融合で、iTQi (国際味覚審査機構) にて2017、2018年と連続受賞。

《宝の活用と整備方向》

1、宝を活用するための中心機能……地域情報センター・二戸広域センター・もりの学び舎 ふるさと自然公園センター・昆虫館 化石館・美女の里。かつちゃん生活創造館

2、宝の道の整備……宝と出会う道の整備・歴史の道、自然との出会いの道、信仰と伝説の道、食の道など・案内板、標識などの整備・沿道環境の整備

3、宝の川の整備……排水処理施設の整備・川とふれあい、親しむ環境整備

4、宝に基づいたイベントの展開……巨木を生かしたイベントの開催・二戸の楽しみイベントの開催・もう一つの本誌シンポジウムの開催・雑穀文化を提唱するイベントの開催・宝めぐり市民ツアの開催・宝を活用したその他のイベント

5、二戸ゆかりの偉人・先人の継承

6、二戸の名物づくり……特色ある料理の開発。地場産業の活用。名物づくり。

7、情報発信・収集機能の充実

8、宝活用環境の整備……ヒメボタルの生息環境保全・川の清流回復と川に生息する貴重な生物の保全・巨木や広葉樹林の保全とふれあいの場づくり・化石の保護・宝の保全と活用のための「憲章的」あるいは「理念的」条例などの整備

9、推進環境の整備……推進体制の整備・誰もが楽しく対戦できる情報検索システムの整備・都市住民との連携強化

《20年間の活動でわかったこと》

○「宝探しは人づくり」である

感想まとめ
市に活かせること等

○二戸市での「宝を生かしたまちづくり」が始まったころには、住民はまちづくりに関心がなく、自分の市のことあまりよく知らなかったという。それが今では、それぞれの地域で、自分の住む地域の宝を生かす活動に取り組むようになった点は素晴らしいと思った。

○二戸市での「わたしの宝探し」アンケートでは、9000世帯から7300件もの回答があったという。複数回答した方もいるだろうが、驚異的な回答数であることに驚いた。

○飯田には4年生の大学がなく、高校を卒業すると子どもたちは都会に出ていってしまう。二戸市の「宝を生かすまちづくり」のような取り組みが飯田市で行われていれば、飯田への愛着が育ち、帰って来ることに繋がるのではないか。

○リニア新幹線開通によって、飯田市には新しい局面が生まれるだろうが、飯田市の魅力は、都会と同じになることではなく、地域の宝を生かすまちづくりだと考える。飯田の宝の再発見をし、それを磨き、未来に伝えていくという、息の長い取り組みを大切にしたい。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・これを参考とし、会派所属の木下容子が一般質問を行った。

平成30年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	市民パワー	支出伝票No.	3		
事業名	地方財政セミナーの研修				
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費	②研修費	③広報費	④広聴費	⑤陳情等活動費
	⑥会議費	⑦資料作成費	⑧資料		
	まちづくり購入費	⑨人件費	⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

地方財政に関する諸課題と今後の方向性を学ぶ

(2) 実施概要

調査・研修の場合の実施日時と訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	平成31年 2月12日 13時00分～17時40分 平成31年 2月13日 9時00分～11時45分	場所：東京都 内容：2019年度「地方財政セミナー」 主催：自治体議員連合・全日本自治団体労働組合

1 研修の概要

報

2 研修内容

日記 2月12日

13:15～ 講演① 「自治体のコモン・ニーズ戦略と財政の自治」
高橋　正志　　埼玉大学大学院 人文学科社会科学研究科 治政専攻

14:45～ 講演② 「水道事業の広域化を考える」
高橋 正幸 埼玉大学人文学部 人文社会科学研究科
宇野 二朗 横浜市立大学 国際総合科学部 教授

16:15~ 講演③ 予野 一助 横浜市立大学 国際総合学科
「ますます強まる『自治より財政』~不条理
と租税論理に反する増税~」

目】 2月13日

9:00～ 本部課題提起「地方財政への自治体関与の教科に向け」

9:15～ 講演④ 「2019年度政府予算と地方財政計画」

其田 茂樹 地方自治総合研究所 研究員
10:35~ 講演⑤ 「地方交付税の現状と課題 ～2018年度普通交付税算定結果を中心に～」

11-15 本部主事人開会

感想 市に活かせること等

○政府は2018年12月、2019年度予算を閣議決定した。一般会計総額は101兆4,564億円。これは7年連続で過去最大であり、当初予算としては初の100兆円超となった。政府予算と地方財政計画を改めて学ぶことができ、今後の課題を認識することができた。

○所得が低下し、生活不安が増大する中、若者の死因1位が「自殺」。自殺死亡率はG7最高という現実がある。「自己責任」を求められる社会から脱却し、「頼り合う社会」を創り上げる大切さを実感できた。「コモン・ニーズを満たす」ために「財政の自治」を創り上げることが大切。これは全国市長会で提案された「協働地域社会税」と同じ発想であるという。「協働地域社会税」についても研究をしていきたい。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

・地方財政計画を学び、今後の会派の提言の参考にしたい。